

泉芳朗像

この記念像は、貧しい出自から身を起こし、徳之島や他の奄美諸島の歴史に大きな影響を与えた泉芳朗を追悼するものです。

第二次世界大戦後の過酷な状況

奄美諸島は、琉球王国（1429-1879）と日本の九州を支配していた封建権力の政治闘争によって長く翻弄された歴史を持ちます。奄美諸島は明治時代（1868-1912）初期に正式に日本の一部となったものの、第二次世界大戦が集結した1945年、今度は米軍の支配下に置かれ、またも外国に従わざるを得なくなりました。日本の大部分は1952年に占領が終了しましたが、沖縄と奄美諸島を含む琉球列島全体は引き続きアメリカの支配下に置かれました。奄美の人々は、人、物資、資金の移動制限に苦しみました。

困難に打ち勝った泉

泉芳朗は1905年3月18日に生まれました。教師、詩人、出版社の経営者として活躍した後、1950年から奄美諸島の日本復帰を目指す活動に関わるようになりました。奄美大島日本復帰協議会の議長、また名瀬市長として、彼は奄美諸島日本運動を主導し、抗議デモや署名活動、ハンガーストライキを組織したほか、アメリカ大使と面会して島民たちの願いを訴えることもしました。彼の顕著な運動により、1953年12月25日、奄美諸島は日本の管轄下に復帰しました；沖縄は1972年まで返還されませんでした。彼は今日、奄美諸島の早期日本復帰の「父」として偲ばれています。